

## 編集後記

『記録と史料』28号をお届けします。テーマは「ボランティアと歩むアーカイブズ」。アーカイブに関わるボランティアとしては、現在全国で20以上の組織が活動しています。かつてボランティア活動は、災害発生地域での被災史料レスキューなどの緊急対応が注目されてきましたが、そうやって立ち上がってきたボランティア組織は、今新たな取り組みの段階を迎えています。将来に向けた史料の保全と活用に、ボランティアの活動が不可欠であるという認識は、阪神淡路大震災以前にはここまで共有されていなかったかもしれません。公文書も含めた歴史史料が、ここまで地域住民のものとして意識づけられるまでには、各地で取り組まれた多くの協働の成果があればこそといえます。

特集に寄せられた4本の論考は、近畿部会での報告をもとにしています。全史料協組織の中でも機動力の高い地域部会で深められた議論は、今後の組織全体の課題の中にどのように落とし込まれ、深められていくか、各組織が有機的に連携しながら課題に取り組んでいくことは、今後の全史料協の存在意義を考えるうえでも重要です。

「アーキビストの眼」は3本です。1は、兵庫県加古川市の稲岡工業株式会社文書保存会の取り組みです。全国の地場産業に関わる史料は、保存の術もなく消滅の危機にさらされています。こうした事例への視点が、今まで十分だったかどうかと実感させられる報告です。2では、沖縄県公文書館所蔵の「稲嶺

一郎文書」の整理作業を通して、個人文書の、一般への公開や利活用を前提とした整理の試みについてご報告いただきました。3は、茨城県立歴史館で行われた調査・研究委員会による公文書館機能普及セミナーを「失われゆく地域アーカイブズの保全のために」と題して実施した委員会報告です。

「世界の窓」ではアメリカにおける歴史的建造物の保存についての紹介です。日本では見落としがちですが、歴史的建造物はアーカイブの保存庫でもあります。日本では被災等で傷んでしまうと、ほとんど解体されていますが、歴史的建造物への保存策の検討も必要ではないかと感じます。また、カリフォルニア州の州公文書館、図書館、市・郡公文書館、大学アーカイブズの論稿も頂きました。

アーカイブズネットワークは、筑波大学アーカイブズ、京都府立京都市・歴史館、防衛省防衛研究所史料閲覧室についてご報告いただきました。書評と紹介は4冊です。中京大学による公文書館の実態調査と、個人による20の公文書館の歴訪記録という、視点の異なる公文書館叙述2冊と、古文書保存の手引き、古文書の料紙論という古文書学の実践的な著書2冊をご紹介します。

新年度より『記録と史料』が、J-STAGEで公開されます。皆様のご意見を賜れば幸いです。(福)

[広報・広聴委員会]

島田和夫(委員長)／高木秀彰(編集長)  
宇野淳子／坂口貴弘／田中友香理／福嶋紀子／藤吉圭二／吉原大志／原田真由美(事務局)

会誌 記録と史料 第28号 2018(平成30)年3月30日

編集： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 広報・広聴委員会  
〒930-0115 富山市茶屋町33-2 富山県公文書館  
電話 076-434-4050 FAX 076-434-4093

発行： 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 (会長 定兼 学)  
〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1 岡山県立記録資料館  
電話 086-222-7838 FAX 086-222-7842

印刷： 北日本印刷株式会社  
〒930-2201 富山市草島134-10  
電話 076-435-9224 FAX 076-435-9220